

<報道発表資料>

令和8年6月17日
京都市建設局道路建設室

「みんなのみちづくり計画」の策定

～ひと・まち・やまをつなぐ「みち」～

平成29年3月に策定した前計画が終期（令和7年度末）を迎えたことや、令和8年4月に都市計画道路網の見直しが決定されたことを踏まえ、次期道路整備計画（令和8～17年度）となる「みんなのみちづくり計画（以下「新計画」という。）」を策定しました。



「みんなのみちづくり計画」

【計画の概要】

● 目的・経過

新計画では、未来の京都に向けた「みちづくり」の考え方と、整備を進める「みち」の具体的な路線を示しています。

新計画の策定に当たっては、「みち」は、京都のまちの文化や歴史が培われた“まち柄”を反映する“京都の顔”であり、「かわ」や「はし」、「みどり」とともに京都の文化的な営みに不可欠な基盤であるという認識のもと、本市の若手職員が中心となり、将来の京都のまちをイメージし、「50年後、100年後の京都において、人と地域のつながりや、安心・安全な空間創出など、誰もが幸せを感じる『みちづくり』のあり方」について議論を重ね、「みちづくり」の考え方を取りまとめました。

● 「みちづくり」の考え方

これからの京都の「みちづくり」に求められるものとして、以下の4つの考え方を取りまとめました。

(1) くらす（住みやすいまち）

歩く楽しさと移動のしやすさを両立し、誰もが快適に行き交うバリアフリー化された“やさしい”「みち」

(2) ひらく（災害に対するしなやかさ）

地震や豪雨などの災害時に、命をつなぎ、安全な避難を支え、地域の孤立を防ぐ強靱な「みち」

(3) きわめる（まちの賑わい）

地域の魅力を引き出し、新たな賑わいと産業の活力を生み出す「みち」

(4) つなぐ（人やもの、地域とのつながり）

地域間や駅などの交通拠点と人の暮らしを有機的に繋ぎ、住民も訪れる人も快適に周遊できる「みち」

路線を選定する際には、この4つの考え方に加えて、賑わい創出効果、道路機能、事業の実現性、早期の効果実感を考慮して選定しています。

● 整備を進める路線

今後10年以内に道路新設や現道拡幅を実施していく「みち」として15路線を選定しました。

<計画の公開>

京都市情報館にて、令和8年6月17日（水）から公開します。

<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000354895.html>

※表紙や挿絵を京都芸術大学の学生に御協力いただきました。

<お問い合わせ先>

京都市建設局道路建設室

電話：075-222-3577